

(別記)

## 美郷町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、仙北平野の南東部に位置し、全耕地面積に占める水田の割合が約93%で基盤整備率が約82%と進んでおり、土地利用型農業の生産性向上等を一層進めていく必要がある。

また、主食用米と技術や機械が共通して取り組みやすいことなどを背景に、近年では加工用米、備蓄米、新規需要米などの非主食用米が増加しており、転作面積の約4割を占めている。

さらに、土地利用型の畑作物のうち、大豆面積の増加が著しく、本地域の主要な転作作物として位置付けている。

なお、アスパラガス、えだまめ、キャベツ、きゅうり、トマト、ねぎ、ホウレンソウ、シイタケ、すいか、花きの美郷ブランド10品目とメロン、セリ、ソラマメ、ニラ、モロヘイヤの美郷町振興野菜など本地域の水稲転作の対象品目は多岐にわたっている。

### 2 作物ごとの取組方針等

本地域の5,900haの水田について、適地適作を基本に、産地交付金を有効に活用しながら作物生産の維持・拡大を図る。

#### (1) 主食用米

消費者や実需者のニーズに対応した「売れる米づくり」を推進し、米の産地として作物生産の維持を図る。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

飼料用米を転作の重点推進品目として位置付け、将来の大幅な需要拡大による作付の拡大を見据え、農業者が取り組みやすい環境整備を進めていく。

具体的には、収量向上や低コスト生産などの栽培管理技術の確立、多収品種の導入、団地化を推進し、産地交付金も最大限活用して作付拡大を図る。

##### イ 米粉用米

農業関係機関、団体、実需者等と連携を強化しながら、需要に応じた生産を行うとともに、水田の有効活用を図る。

##### ウ 新市場開拓用米

農業関係機関、団体、実需者等と連携を強化しながら、需要に応じた生産を行うとともに、水田の有効活用を図る。

##### エ WCS用稲

農業関係機関、団体、実需者等と連携を強化しながら、需要に応じた生産を行うとともに、水田の有効活用を図る。

#### オ 加工用米

J A等の連携のもと、複数年契約（3年間）による安定的供給を推進するため産地交付金の追加配分を活用しつつ、生産拡大を図る。

#### カ 備蓄米

農業関係機関、団体等との連携を強化しながら、水田の有効活用を図る。

#### （3）麦、大豆、飼料作物

大豆については、今後とも転作の重点作物として位置付け、産地交付金等を有効活用しながら団地・集積化を推進するとともに、モミガラ補助暗渠等による排水対策や堆肥の投入等による地力増進に努めるなど、生産性向上対策の確実な導入定着を図る。

麦、飼料作物については、産地交付金を活用し、組織経営体による団地・集積化を推進し、農業関係機関、団体等の連携を強化しながら水田の有効活用を図る。

#### （4）そば、なたね

水田フル活用の観点から、不作付地を有効に活用できる作物として位置付け、地域の需要者との契約を基本として、産地交付金の活用により集積化を推進し、作付拡大を目指す。

#### （5）高収益作物（野菜等）

野菜・花き等については、複合経営の柱となる作物として位置付け、美郷ブランド10品目や美郷町振興野菜の重点作物を選定し、産地交付金をはじめ、強い農業づくり交付金や夢プラン事業など、国や県の支援策を有効活用し、収益性の高い品目の作付拡大を図る。

果樹については、種なし大粒ぶどうなどを振興作物として取り組みを進める。

生薬については、町の“生薬の里 美郷”構想に基づき、生産から出荷までの一連の体制整備により、国産優良生薬の安定供給を目指す。

地力増進作物については、基盤整備事業によって整備される大区画ほ場へ、翌年度以降の作物の収益力向上を目的に、ほ場の透水性や土壌環境等の改善を期待し作付を行う。

#### （6）畑地化の推進

主食用米の需要が年々減少する中、需要に応じた米の生産・販売を進めるとともに野菜等の高収益な畑作物の本作化を進めるため、また、単位面積当たりの生産性を高めていくためにも、畑地化による排水改善や作業効率の向上を進めていく。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	3414.5	3336.0	3300.0
飼料用米	58.4	75.0	90.0
米粉用米	4.1	5.0	6.0
新市場開拓用米	0	30.0	40.0
WCS 用稲	135.9	140.0	145.0
加工用米	438.4	450.0	460.0
備蓄米	486.0	495.0	505.0
麦	4.0	5.0	6.0
大豆	571.8	630.0	670.0
飼料作物	323.0	330.0	335.0
そば	9.2	10.0	11.0
なたね	1.8	3.0	4.0
その他地域振興作物	235.8	249.7	252.5
野菜	220.8	231.7	237.7
花き	14.6	13.5	14.3
果樹	4.0	4.5	5.0
生薬	0.5	1.0	1.5
その他作物	2.7	3.3	3.6
地力増進	197.6	200.0	205.0

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	大豆(基幹作物)	大豆団地加算助成(6ha団地)	6ha以上の連坦団地化 10a当たり収穫量	(現状(29年度)) 146ha 162kg/10a	(32年度) 290ha 220kg/10a
2	大豆(基幹作物)	大豆団地加算助成(3ha団地)	3ha以上6ha未満の連坦団地化 10a当たり収穫量	(現状(29年度)) 109ha 162kg/10a	(32年度) 230ha 220kg/10a
3	大豆(基幹作物)	大豆集積加算助成	10ha以上の面積集積	(現状(29年度)) 520ha	(32年度) 630ha
4	美郷ブランド10品目(アスパラガス、えだまめ、キャベツ、きゅうり、トマト、ねぎ、ホウレンソウ、すいか、花き(別紙2 作物一覧(花き)参照)、シイタケ)(基幹作物)	ブランド品目作付助成	作付面積	(現状(29年度)) 87ha	(32年度) 120ha
5	美郷町振興野菜(メロン、セリ、ソラマメ、ニラ、モロヘイヤ)(基幹作物)	振興野菜作付助成	作付面積	(現状(29年度)) 6ha	(32年度) 20ha
6	整理番号4・5の対象作物以外の野菜等(基幹作物) ※別紙3 作物一覧(その他野菜、山菜)参照	野菜等作付助成	作付面積	(現状(29年度)) 18ha	(32年度) 30ha
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>■美郷ブランド10品目(アスパラガス、えだまめ、キャベツ、きゅうり、トマト、ねぎ、ホウレンソウ、すいか、花き(別紙2 作物一覧(花き)参照)、シイタケ)(基幹作物)</li> <li>■美郷町振興野菜(メロン、セリ、ソラマメ、ニラ、モロヘイヤ)(基幹作物)</li> <li>■整理番号4・5の対象作物以外の野菜等(基幹作物)</li> </ul> ※別紙3 作物一覧(その他野菜、山菜)参照	野菜、花き団地化加算助成	団地面積	(現状(29年度)) 30ha	(32年度) 45ha

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
8	りんご、なし、ぶどう、おうとう、もも、ブルーベリー、プルーン、キウイフルーツ、いちじく、くり、柿、うめ、すもも（基幹作物）	果樹作付助成	作付面積	（現状（29年度）） 2ha	（32年度） 5ha
9	たばこ、小豆、ハトムギ（基幹作物対象）	その他作物作付助成	作付面積	（現状（29年度）） 1ha	（32年度） 4ha
10	生薬（カンゾウ・キキョウ・エイジツ・センブリ）（基幹作物対象）	生薬作付助成	作付面積	（現状（29年度）） 0.5ha	（32年度） 2.0ha
11	飼料用米の生産ほ場の稲わら（基幹作物）	耕畜連携助成（わら利用）	わら利用の取組面積	（現状（29年度）） 2.7ha	（32年度） 5.0ha
12	飼料作物等（粗飼料作物等の範囲は別紙4に定めた作物とする）（基幹作物）	耕畜連携助成（資源循環）	資源循環の取組面積	（現状（29年度）） 58.7ha	（32年度） 67.0ha
13	地力増進作物【エン麦、ライ麦、イタリアンライグラス】（基幹作物対象）	地力増進作物作付助成	ほ場整備面工事後の地力増進作物の作付	（現状（29年度）） 0ha	（32年度） 83.8ha
14	加工用米（基幹作物） （平成28年度からの3年契約分に限る）	加工用米の複数年契約への取組支援	加工用米複数年契約面積	（現状（29年度）） 24ha	（30年度） 12ha
15	飼料用米・米粉用米（基幹作物対象）	多収品種導入への取組支援	作付面積	（現状（29年度）） 33ha	（32年度） 42ha
16	そば、なたね（基幹作物）	そば、なたねの作付助成	作付面積	（現状（29年度）） 2ha	（32年度） 8ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

## 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり